家庭寶鑑

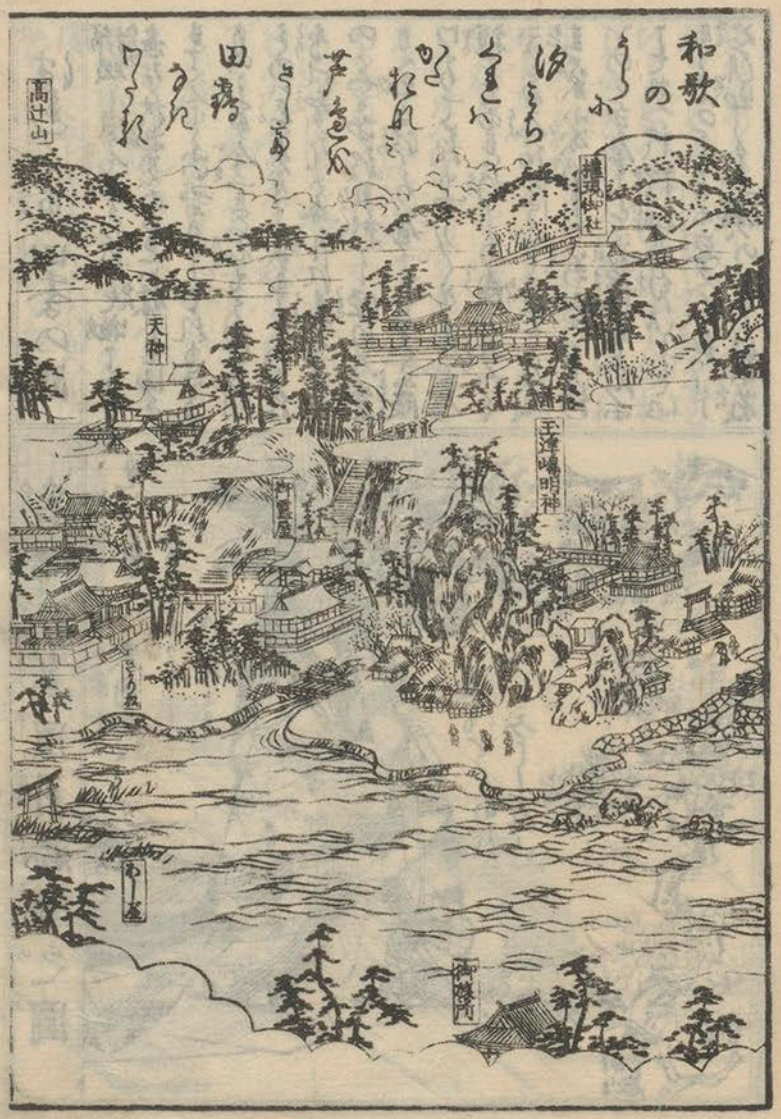
小倉百人一首

聯珠

自撰聯

聯珠

自撰聯



伯爵通房

秋をへて
みまくらの
少倉乃高嶺
峰のもみち葉

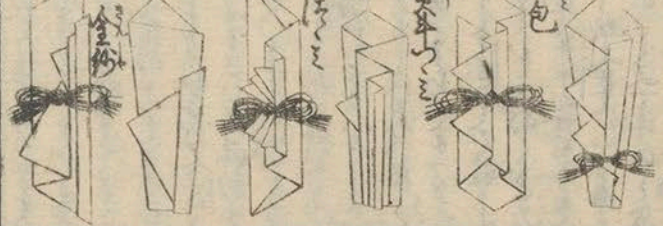
はるの草四季の眺

名婦花鳥風月勝詠之圖

ほやしきに
あそぶ
ひとりの
ひとりの
ひとりの

八条院宮食
の
ものを

小笠原流折形指南



女中五性名字畫盛

木性

福鶴半文波
茶屋光義金田沢
新谷春竹梅梅麻
紫房品勅冨大冨

火性

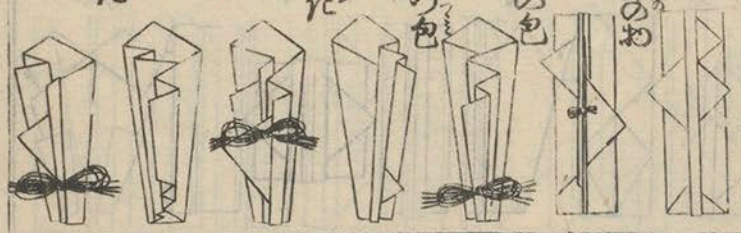
庵吉岩虎貴
久菊花為鶴吟越
稲葉延梶玉金
乘源寿極今玉蓮

土性

重中海陳倫
長濱六為町東滝

日本六乃玉川

梭の物



陰流 丹留蓋
笛通 留楠滝岩品

金性

幸垣好鉄安
市巻繼巻民門吸
糸末渡電用里帯
露寿角茅久与中

水性

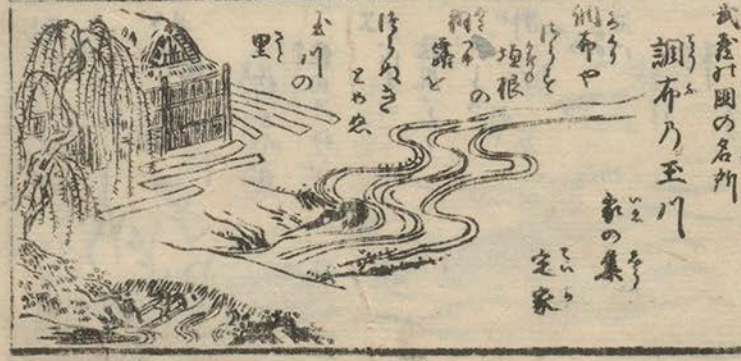
徒子種秋乃
松晴若石岩吸光
市十低徳七二小
次琴磯糸谷元文
丈村雲和湯冥辰

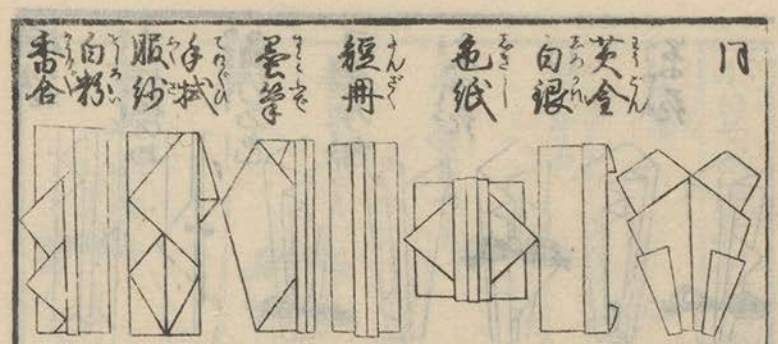
武蔵れ國の名所

調布乃玉川

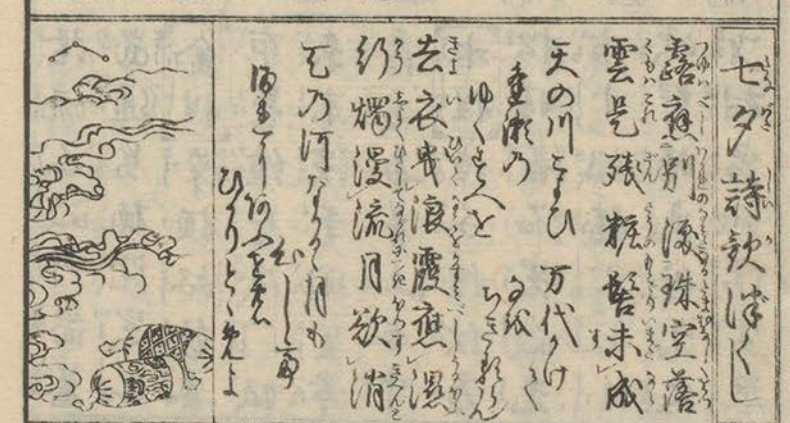
家の集

定家

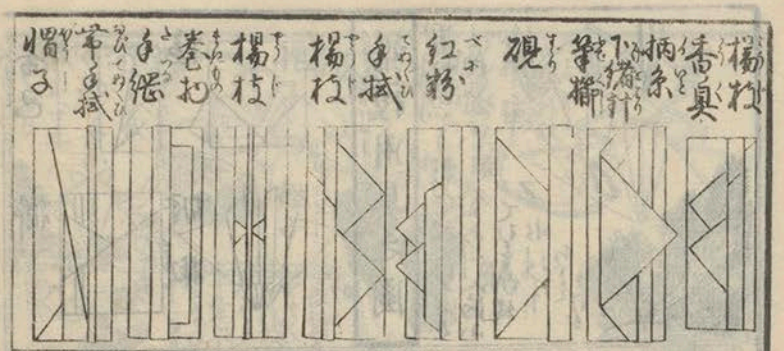


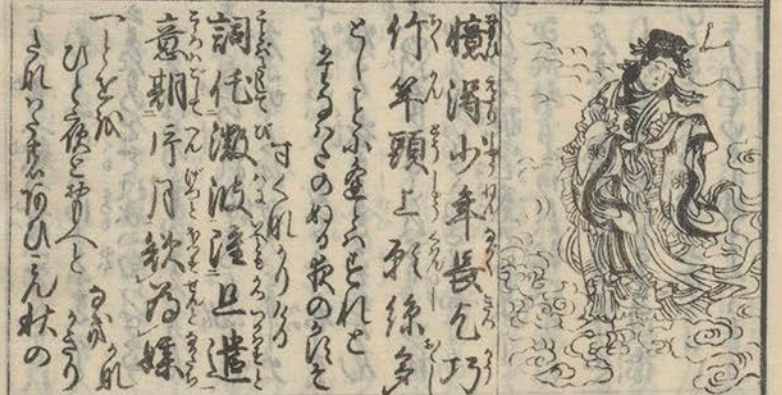

英合
白銀
亀紙
短冊
雲母
手拭
服紗
白粉
香合

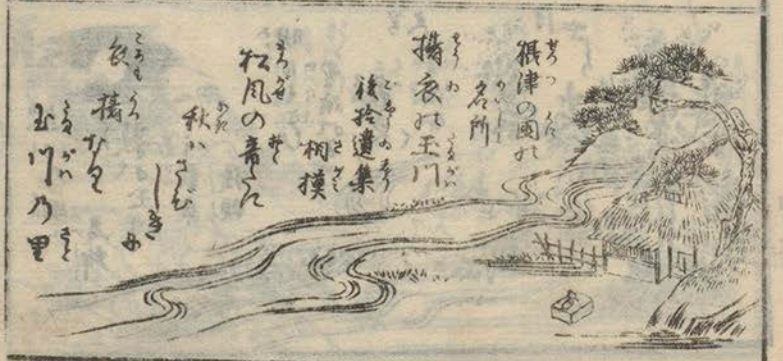
七夕詩歌ばくし


嘉慶門 添珠宮殿
雲見殘粧 未成
天の川 ちひ 万代 けく
重淵の
ゆくさくと
去衣 哀 霞 霧
幼燭漫流月欲消
乙の河 なりぬ
ゆきてのこれる
ひとり と 先よ

隆奥
力 紫
千鳥の玉川
新古今集
能因法師
夕ばえ
秋風 入て
野の
田の
玉川
千鳥
鳴


楊枝
香奠
柄糸
下緒
筆櫛
硯
紅粉
手拭
楊枝
楊枝
巻物
手紙
筆手拭
帽子


懽渭少年長乞巧
竹年頭上 乎絲多
うしとふ年にとれと
そうるこのめる秋のうたを
調伝激波淫旦遣
意朝汗月秋為媒
一ちとせ
ひとり夜を待つ
とれりこのたのひこんれの


摂津の国の
名所
播衣れ玉川
後拾遺集
相模
牡鹿の音
秋
袋
播
玉川の里

香包

熨斗

切熨斗

婚禮用具之圖

男結のこと　熨斗を花ゆひつけ
と　鶴亀の具
全ての一番ふ
てむすび付
水引
ちくしゅう

七夕の童子歌乃屋ふやてことれ
わくりふひくハけくふきいと
さまりのをもれ衣ふ匂ひ乃せる
七夕はちの　蕃仏まつ〜ん
ちく〜嶽のむれとこの色の
屋ふかく〜れ秋乃とり〜火
七夕乃いわさんそて地る布を
ほさう衣さまもるそわんん
天の川色ひとれとり一つ風
ひくをいそくねさよ色なり
ひそつる龍の七葉乃ゆりこし
ゆ仏むまをのふ秋はタくれ
七夕先更ね繋りどちんしゃ
くれとかしふくきれ橋
ひと星の天乃男ふかでーく
こしひやりそふ流まんるそる

迦江乃國の名所
萩が玉川
千載集
後頼

明日もこそ
見流れむ川
萩の
天乃る流れ
月
やう

女蝶のかたち
花ゝ結ひ
ひんぐのひふ結
結て結ひ
こしも男
てこの
葉ふ
すび

瓶子

長柄のえ
月れ秋ふ
なぜく
十五夜べし
星ちくふハ
十三ゆり

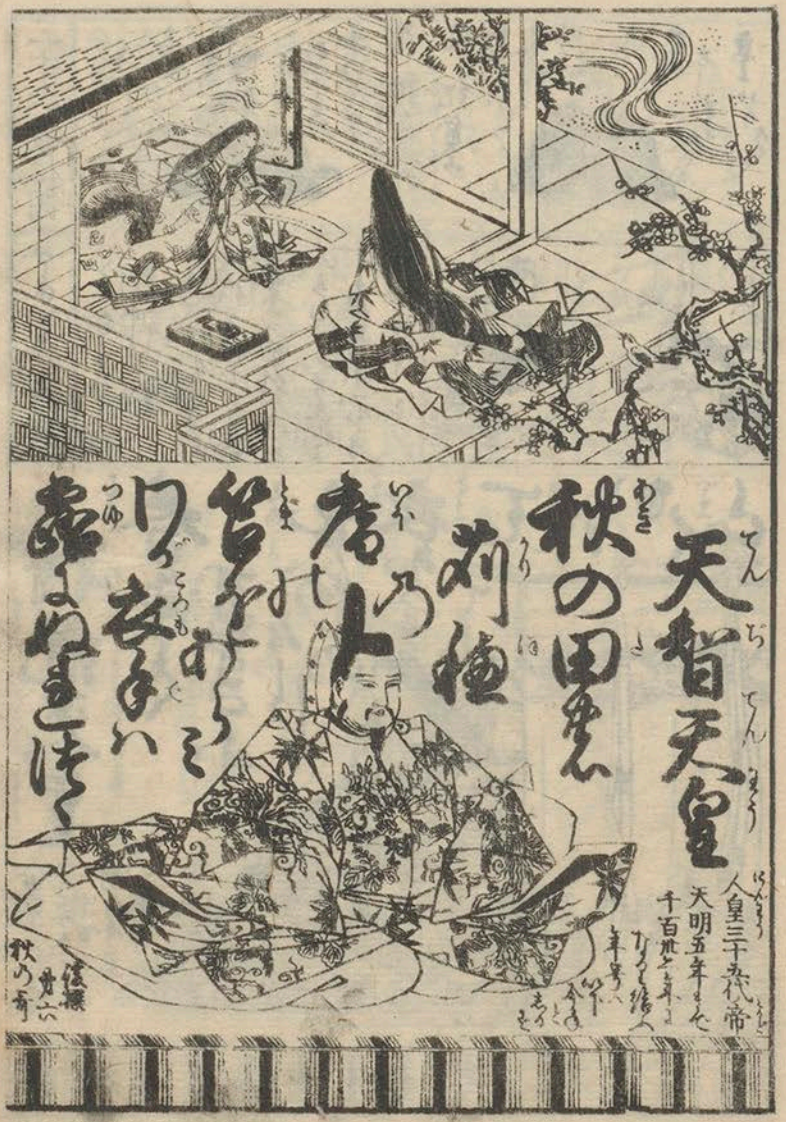
花
桃子

花のすが
長柄乃垂ふ
紙うて十二
まくゆり

天の川あ〜しひの一せれ乃まゆ
方代ゆてゆ仏ちきるらん
ひくせふ一歌と世りと七夕の
わひうん秋のうゆりゆ流る
てれ河ながく月もて流せ
まれのわ〜瀬う光ぞやく
七夕ういのうゆ色やをげうん
ゆ乃てゆ久れゆ仏れとの繁
歌りとう星合の色ふそまる
者れそうりやもくなるうん
さまのゆ一歌りとそれるこの
仏すくもほうまるうん
ゆ仏ぐ繁のさもいゆとそふの
ゆりひふりくれ天の川う
潜ゆるゆどそゆ色一天のゆ
いくふりさわ〜永流ゆるうん

紀伊乃國の名所
吉野の玉川
風雅集
弘法大師

ひとそれても
思やー
流ー人
旅人乃
吉野の
彩乃
玉川れ水



百人一首よこくせ

百人一首

天智天皇　秋の田の刈穂

持統天皇　春すぎて夏

山部赤人　田子の浦に

猿丸大夫　奥山に

中納言家持　鹿の

阿倍仲麿　天の

喜撰法師　わが庵は

小野小町　花の

蟬丸　これやこの

僧正遍昭　あまつ

文屋朝康　白露に

右大臣菅原道真　この

参議篁　わたの

在原業平朝臣　ちはや

藤原敏行朝臣　住の

伊勢　難波

元良親王　わびぬ

源宗于朝臣　山

凡河内躬恒　心

壬生忠岑　有

紀友則　夕

藤原定家朝臣　来

藤原兼輔　恋

源重之　風

大江千里　月

藤原道信朝臣　明

藤原義孝　君

藤原実方朝臣　かく

藤原道綱母　嘆

藤原伊尹　あら

藤原高光　一

藤原朝忠　逢

藤原実定　瀬

藤原清輝朝臣　あま

藤原公任　滝

藤原基俊　音

源俊頼朝臣　思

藤原定家朝臣　待

藤原家隆朝臣　百

後鳥羽院　み

藤原秀能　嵐

源実朝　世

藤原雅経　奥

藤原知家　鳴

藤原良経　こ

藤原俊成　村

藤原為家　雲

藤原雅有　来

藤原定家朝臣　恋

藤原家隆朝臣　風

後鳥羽院　人

藤原秀能　春

源実朝　夏

藤原雅経　秋

藤原知家　冬

藤原良経　恋

藤原俊成　雪

藤原為家　旅

藤原雅有　恋

藤原定家朝臣　恋

藤原家隆朝臣　恋

後鳥羽院　恋

藤原秀能　恋

源実朝　恋

藤原雅経　恋

藤原知家　恋

藤原良経　恋

藤原俊成　恋

藤原為家　恋

三十六歌仙図
女子習状絵解
持統天皇
春過ぎて夏きたるらし
白たへの衣ほすてふ
天の香
柿本人麿
あしひきの山鳥の尾の
しだり尾の
ながながし夜を
ひとりかもねん

山道赤人
田子の浦
うち出でて
見れば
白妙の
富士の高嶺に
雪は降りつつ
猪丸太夫
奥山に
紅葉踏
なく鹿の
こえきくときぞ
秋はかなしき

中納言家持
安倍仲麿

表擬法師
小野小町

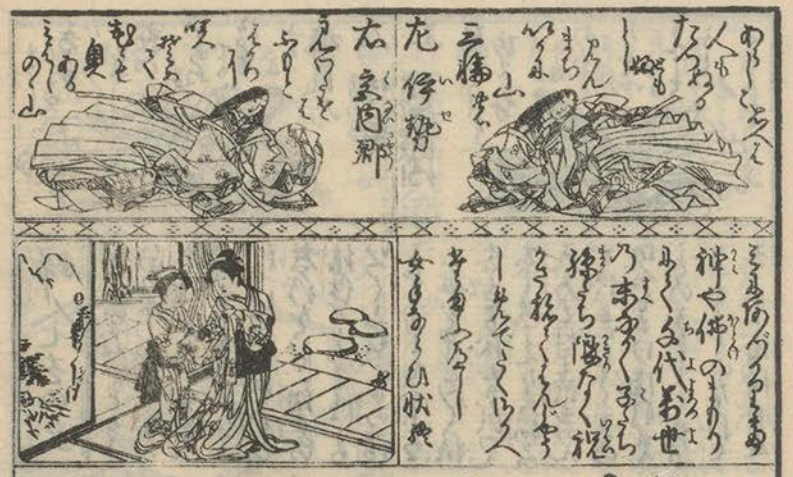
輝丸
仁和帝の時代
久人命
五
参議篁
和田の京
古今九百六十二首
闕歌十九

僧正遍昭
陽成院

中納言行平
東京業平洲崎
千早振
神代も
きくとは
聞
川
竜田
紅葉
ゆうべ
きくは
今の人
古今東人
御別荘

右大臣生忠見
左大中臣能宣
平重盛
左中将
侍従
那波ゑ

女三十六歌仙図



婦人七去の文
文屋康秀
吹こしに秋の草きの
大江千里
月見れば
物こそ
悲しけれ
我のみ
ひとつの
秋にはあらねど

菅家
おのそひい
ぬさもと
りあへず
手向山
もみちに
神のまに
三條右大臣
名にしおふ
山の
ちの
人まろし
くるよりも

貞信公
小倉山
峰のもみぢ
心あらば
今ひとたびの
御幸まつなん
中納言兼輔
見わたせば
山もとかすみ
白雪の
いづくも
春の
夕ぐれ
十三

源宗于朝臣
山さとは冬ぞさびしさまさりける人めも草もかれぬと思へば

元河内守恒
みわたせば柳桜をこきまぜて都ぞ春の錦なりける

壬生忠岑
有明の
つれなく
見てすぐる
しら月の
なごりを
なにとうきわるらん
坂上是則
名にしおう
あさぼらけ
有明の月と
見るまでに
よしのの里に
ふる雪
右少将内侍
左小式部内侍

春道列樹
山のあらしのうけしれぬ
なりけり
紀友則
久かたの
ひかりのどけ
き
春の日に
花のちるらん

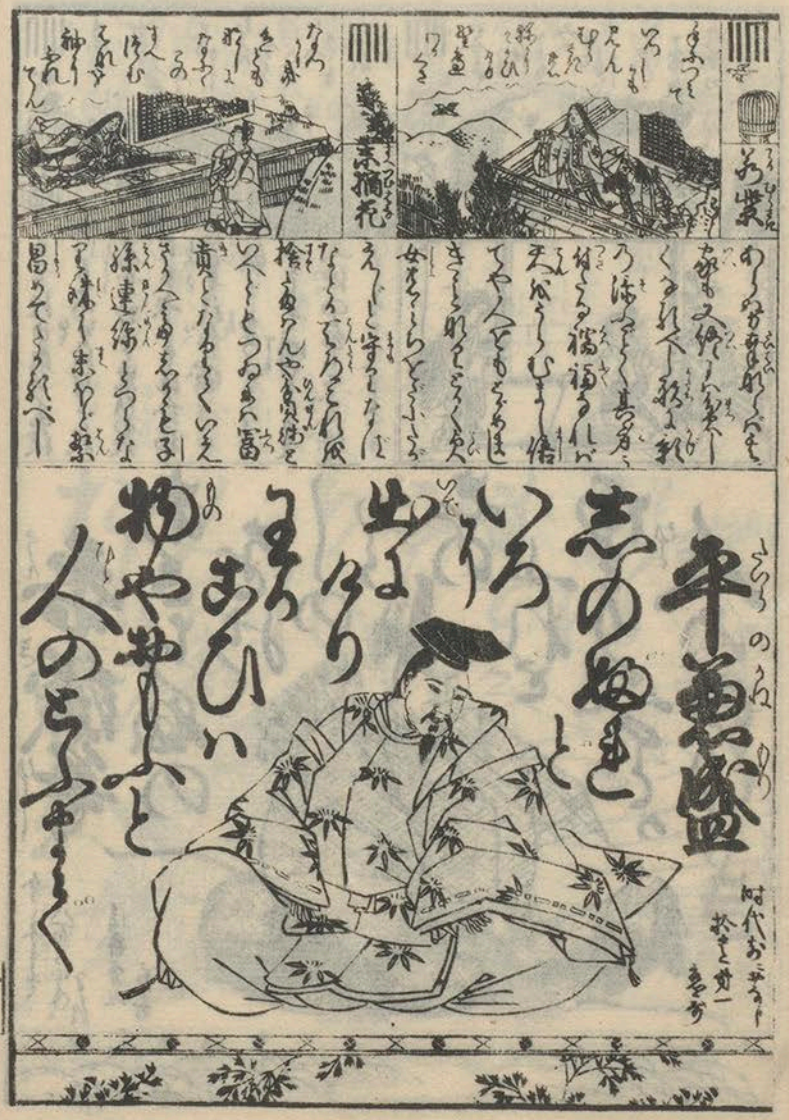
菅原無風
誰をうと
人をむ
高砂の
松もむかしの
友なるらむ
左大臣二位
右大臣二位
今まで七百二十五
古今集十七
雜部

紀貫之
人をいさ
心もしらず
ふるさと
の
花ぞ
むかしの
香ぞ
左高門侍
中納言
今まで九百十五
古今集十七
雜部

清原深養父
夏の夜を
まだ宵
なから
明るるを
雲のいづこに
月やどるらん
文屋朝康
白露に
風の吹しく
秋の野に
つらぬきとめぬ
玉もちりけり
十八

源氏物語 初音 桐壺
帚木
空蟬
夕顔
春議等
あさちはの
をちの
この山
れを
ゆきて
人のあひき

工業之賀
花之宴
女教平生益鏡
壬生忠見


弓場
菜摘花
平兼盛

髮
神代
清水之浦
髮きれ
袖の
神代巻
を糸の
まつ山
なつかしとは
今年まで
六百五十六年

花敷里
須磨
中納言敦忠
八百年
後世
人
むしろ
おもはるる

蓬生
謙德公
人をも
身のいとうとなりぬ

明石
澪標
中納言朝忠
人をも

俳合
松風
薄雲
胡頻
惠美法師

源重之
風をいとみ
岩うつ
なみの
をとをも
くだけて
ものを
おもふかな
七百八十六番
部花堂主人
玉鬘
頬杖ついて
思ひ
出す
蛍の
光
初音
胡蝶
太中将宣孝朝臣
御垣守
衛士の
焚く
火の
秋
思へ
ひるは
なき
ものと
知れ
七百八十七番
桃花堂主人

常夏
野分
藤原実方朝臣

菅原道真

御幸
蘭
菅丞相
梅ヶ枝
菅原道真朝臣

若葉
柏木
大納言の位
滝乃音は
久しくも
ありぬれど
名をぞなつかし
松の風

若葉
儀同三司の
手枕
のり糸
まそい
ぬしを
市の
くきりは
命とも
糸

扶餘
珍虫
和泉式部

夕顔
御法
紫式部

幻
白宮
紅梅
竹川
赤染衛門

総角
早蕨
伊勢大神
桜
九重ふ
匂ひわるとか

橋姫
椎本
小野の寺
大江山
いくのみち
こちらの
ふみも
あまの
ちりぢり

菊本
四阿
清少納言
枕をこそ
あるべけれ
ともよ
ふるさの
笑ひゆるさし
浮舟
蜻蛉
右京亮道雅
今はたゝ
ちかひ
えん
ぐりの
人ぞ
ゆるすか

檜中納言定輔
柳ちるうらの川岸
さくら
あらし
波の
網代木

十二月和歌
正月
桐模
神
名

二月
三月
花大僧正行基

四月

三條院

五月

六月
良遷法師
今年とし七百九十九歳
法師さま
秋のゆふぐれ

七月
大納言經信
今年とし七百九十九歳
門田の
稲
秋の夕ぐれ

九月
菊の節句
菊中納言匡房
高砂や
おのへの
ちくら
咲よ
とやまれ
さくらみ
さくらばも
わるうん

八月
とれ
袖の
つけ
書てきて
祝ひ家紀伊

十月
琴曲の組歌
源俊頼朝臣
藤原基俊

十二月
法性寺殿藤原忠通公
崇德院
瀧川の

源兼昌
淡路潟
ちとりの
なく
あわぬ
恋ゆえ
ねぬ
夜の
明石
とまりの
月
とまりの
月
秋風に
なびく
雲の
切れ
間より
もれ出る
月の
光かな
菅原道真

待賢門院堀川

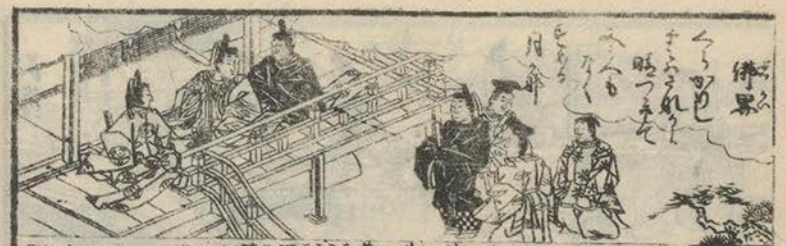
人道
後德大寺左大臣

天道
桐壺
須磨
道開法師

関
天下太平
皇后宮大夫俊成
世の中よ
みれ
山のわくゆも
森うなくるか

春夏秋冬
四季の四季序
春
夏
秋
冬
今いまの世そ

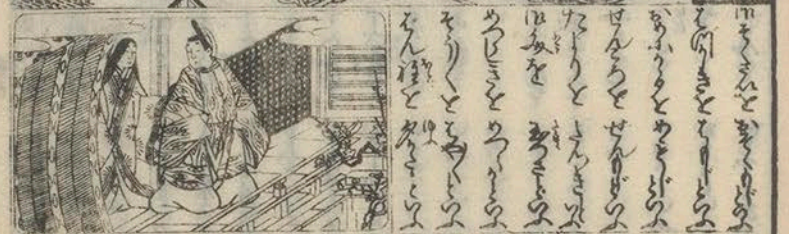
秋の月
秋
冬
俊恵法師



御所言葉寄

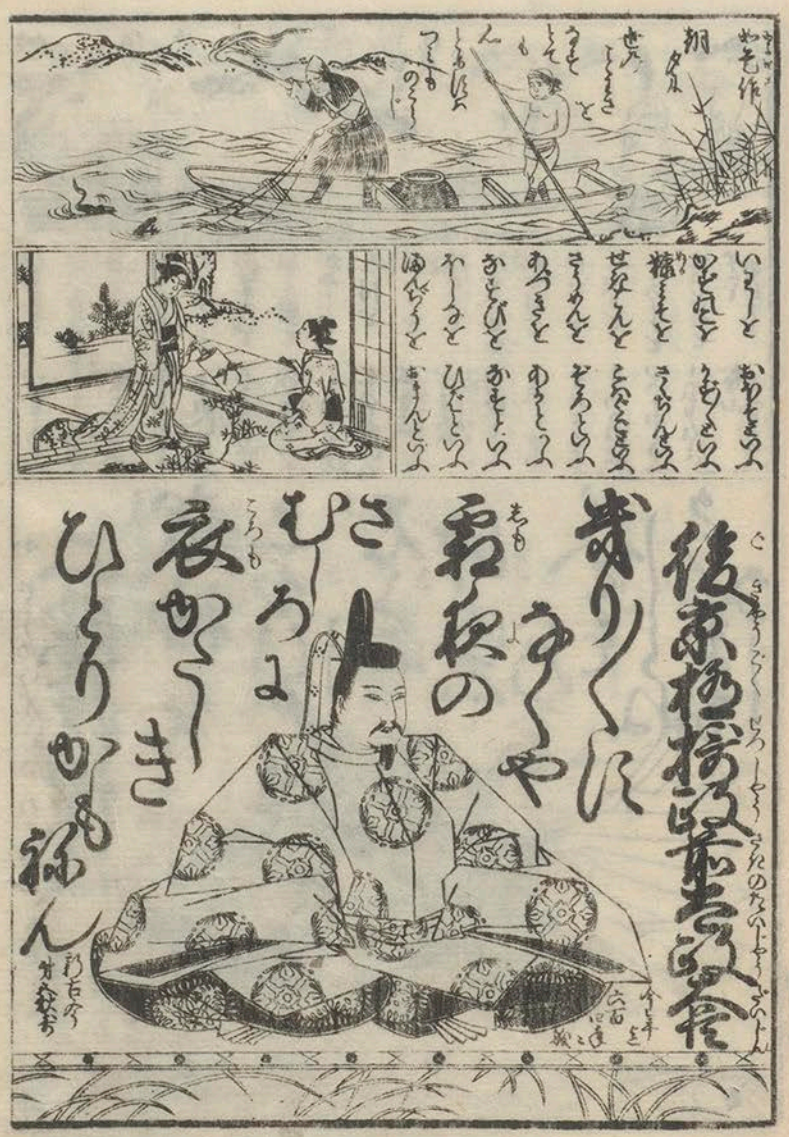
西行法師

十如是和歌平圖



辛蓮法師

殷富門院大輔
見せもやな
人の
袖ふる
わまれ
ぬまにも
ぬれそ
ぬれは
ぬれは


後京極摂政太政大臣
きりぎす
なくや
霜夜の
さむしろに
衣かたしき
ひとりかも寝ん

二條院讃岐
我袖は
干しあへぬ
涙の石
乃
人こそ
しらぬ
くちもみしか

源兼宿大臣
世中は
なにかつね
なる
海
こそ
わまれ
少あま乃
ほるてふ
なれ

人間一生酒祝儀
春儀雅望
みちのくの
心の松を
ひらけば
更く
ふるさと
むかし
衣うつり
前大僧正義圓
今年
七十七
うき世の
民ぞ
ぬれ
わかけれ
ぬれ
袖
四十七

花さくや
わしの
庭の
雪と
なりて
ゆくものの
まつ間
なりけり
権中納言定家
あね人を
まつの
うち人
多佐
なくやりれつ
間もこそれつ
花

名寄六十種
名寄文字づくり
西三位家隆

後鳥羽院

1001975372

明治三十二年七月十五日印刷
明治三十二年七月十八日飜刻發行

定價金四拾錢

發行兼印刷者　松邑金次郎
東京市京橋區弓町十二番地

發行書肆　東京市京橋區弓町十二番地　松邑三松堂

小倉百人一首奥付